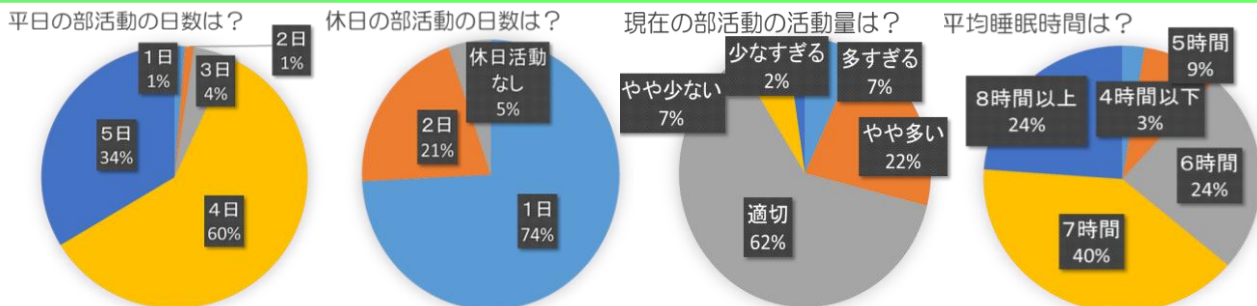




中学生アンケートの結果をお知らせします

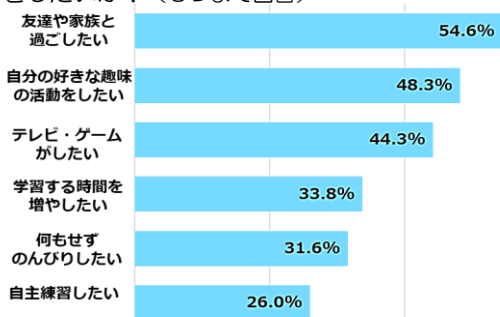
部活動改革に当たり、当事者である中学生の声を聴くため、市立中学校全生徒を対象にアンケートを実施しました。ご協力いただきありがとうございました。結果から明らかになった中学生の実態について紹介します。（結果の詳細は、裏面のQRコードから第2回会議資料でご覧いただけます。）

回答率82.1%（4561名/5554名中）

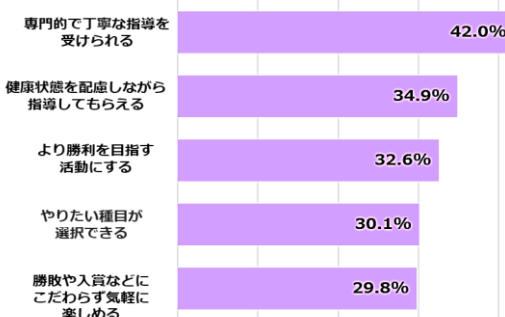


- ✓ 平日の部活動の日数→ガイドラインを超える「5日」が3割超、「2時間半以上」が3割超
- ✓ 休日の部活動の日数→ガイドラインを超える「2日」が2割超、「3時間以上」が6割超
- ✓ 「部活動」と「学校外の習い事」をしている生徒は週19h超、年間960h（50週）の活動量
(注) 年間授業時数に匹敵する活動量
- ✓ 睡眠時間が6時間以下の生徒が36% ⇔推奨睡眠時間 8h30min
- ✓ 部活動の活動量が今より減ったら、「自由に過ごしたい」が上位、「自主練習したい」は26%

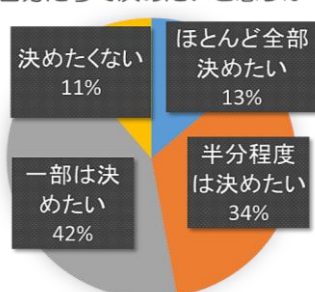
部活動の活動量（時間や日数）が今より減ったら、何をしたいか？（3つまで回答）



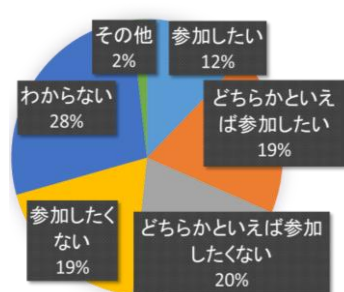
どんなスポーツ・文化活動なら満足するものになると思うか？（部活動に所属する生徒）



練習内容や試合メンバーなど自分たちで決めたいと思うか？



部活動の時間が少なくなったら他の活動に参加したいか？



地域クラブでどんな活動をしたいか？（3つまで回答）（地域クラブ参加希望者（1394人）のみ）

1位：バドミントン	262人
2位：バスケット	252人
3位：サッカー	218人
4位：バレーボール	196人
5位：eスポーツ	163人
6位：釣り	152人
【その他】	
弓道・アーチェリー（111）、料理・お茶（98）	
動画編集（73）、職業体験（66）etc.	

- ✓ 生徒の約5割が「別の学校の生徒と一緒に活動してみたい」と回答
- ✓ 「専門的で丁寧な指導」、「やりたい種目が選択できる」、「健康への配慮」、「気軽に楽しめる」等、スポーツ・文化活動へのニーズは多様
- ✓ 「地域クラブに参加したい」と回答した生徒は約3割。今の学校部活動にはない活動を多くが希望

第2回佐賀市部活動地域展開会議を開催しました

- 日時 令和5年11月22日(水) 10:00~12:00
- 場所 佐賀市青少年センター大会議室
- 委員等 学識経験者、保護者代表、地域スポーツ関係団体、文化芸術関係団体、中学校長、市中体連、代田昭久アドバイザー、県保健体育課(オブザーバー)



渡瀬浩介座長から周辺自治体の取組をご紹介いただきました。その後、事務局から中学生アンケートの結果報告及び“地域展開の方向性(素案)”を提示し、意見をいただきました。

【アドバイザーから】全国と比較した佐賀市の中学生アンケートの結果分析

- (1)スポーツ庁/文化庁のガイドラインを越えて活動している割合が多い。
→ **活動時間の精査(適正化)**が必要。早急に是正を。
- (2)現状で活動内容を自分たちで決めている割合より、自分たちで決めたいと考えている割合が多い。
→ 中学生の**主体的な意思決定**が重要。活動の中で**自己決定できる機会**を増やすことが必要。
- (3)他校生徒と活動してみたいという意見や、地域移行後にダンスやeスポーツ等をやってみたいという意見も多い。
→ **「地域全体で楽しめる・選択肢のある」文化・スポーツ活動**を創っていくことが重要。

地域展開の方向性(素案)に対する委員の意見

《方向性1》学校部活動としての活動量・内容の見直し

- ◇部活動の活動量を見直す上では、勝利至上主義からの脱却の視点が重要だ。
- ◇現在の部活動の活動量は多いと感じる。自分が運営しているクラブでは週3回×2時間の練習で大会上位入賞者が出ている。ガイドラインで活動量を制限する必要があるのではないか。
- ◇睡眠時間が短くなっている要因をもう少し詳細に分析してほしい。PTAでもスマホ・ゲーム依存が問題となっており、活動量だけが睡眠時間に影響している訳ではないのではないか。
- ◇中学生を指導したい大学生は一定数見込める。学生にもメリットが多く、学校側の指導者確保、専門的な指導確保の観点からも学生コーチの導入は有効だ。
- ◇専門外指導が教員の一番の負担感。年齢構成の二極化で、親の介護等で指導に従事できない教員も増えている。学生コーチ活用に期待したい。
- ◇指導に意欲ある教員をサポートする体制と働き方改革を両立し円滑な移行に繋げてほしい。
- ◇指導に見合う報酬を支払うことで、指導に携わる教員を支えられないか。

《方向性2》多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化

- ◇飯田市では、各競技団体やNPOと連携し、多様なクラブ活動を創設し広報している。
- ◇個人の文化芸術分野の地域移行は成功事例を聞かすが、吹奏楽の実践事例を知りたい。
- ◇文化系では高校と連携していく考え方もある。
- ◇県教委で各市町の取組をリーフレット化し、保護者に配布することで周知を図る予定。

《方向性3》“地域型クラブ”の立ち上げ・運営に対する支援

- ◇大学と連携した指導者育成プログラムや指導者登録、指導者派遣などをモデル化できないか。
- ◇学生コーチや地域指導者の人材データバンクの構築に期待したい。
- ◇地域展開を進めるプロセスとして、部活動の教育的意義を地域と共有することが重要だ。
- ◇地域指導者への研修を通じて、指導者の質を担保していくことが必要だ。
- ◇地元で陸上の地域クラブを設立した。競技経験の有無に関係なく、未就学児も小中学生も一緒に誰もが楽しみ、生涯スポーツに繋がる活動をめざしている。
- ◇子どもたちに様々な活動を経験してもらい、志向に応じた住み分けを進めることが必要だ。



今後も部活動の地域展開について
随時、情報発信していきます。

詳しくは佐賀市HPをご覧ください。→



【発行・お問い合わせ】
佐賀市教育委員会 教育総務課
担当：志津田・手島・野元・岡
電話：0952-40-7352
E-mail : kyoiku@city.saga.lg.jp